

— 成都中央通信社國際放送 (十日) —

(朝鮮總督府逕信局錄取)

一、重慶報

(1) 立法院長兼支蘇文化協會會長孫科は長々支ソ關係を論じ、「英、米、佛が共同行動を取る迄はソウエートも輕卒な行動を取ることを避けるであらうし、又支那としてもソウエートだけが反日戰に参加することを欲しないだらう」語つた。何故ソ聯は日本に對して動員しないのかとの質問に對し彼は「支ソ軍事援助協定が戰前に締結されてゐたのであつたら、ロシアは一度支那が侵入を受けた場合には支那援助の義務を負ふだらう、しかし事實か、協定は一九三七年七月七日の蘆溝橋事件前に締結されたものではなく、且ロシアの動員條件は支ソ兩國が同時に日本の攻撃を受けた場合となつてゐる、日本はこの點至極狡猾で同時に支ソ兩國へ挑戰するときは日本の不利なることを知りロシアと事を構へることについては特に注意してゐる」。孫科は初めてソ聯の動員が容易に實現しない理由を洩し、「無任所大使として昨年モスコウにゐた際日本と戦ふために赤軍を出兵することは次の三つの場合でなければならぬと知らされた、即ち(一)國際聯盟が規約に則り日本に對し共同制裁を行ふことを決議するか(二)英、米、佛、ソが諒解に達し日本を阻止する爲共同行動をとる

217

ことを決議した場合(三)或は日本がソ聯國境に侵入しソ聯が自衛の爲日本を斷乎膺懲する場合で、「一年前のこの條件は今日にも當はまるものである」と語つた。彼によれば支ソ不可侵協定は一九三七年の八月に締結されたが、支ソ相互援助協定締結に關する交渉は未だ開始されてゐない、歐洲情勢の不安定によりロシアは極東に於て積極的行動を取る事を妨げられてゐる、それでロシアは支那に精神的、外交的、物質的援助しか與へ得ず、之等を過去十八ヶ月間に亘つて紳士的に行つて來たものである。尙支那の外交方針に就て彼は支那が英米佛ソと手を握つてゐることは支那の民主戰線参加を意味するものである、「ロシアと友好關係を維持し、同時に英米佛と親交を續けることには何等の矛盾もない、「實際上に於て支那の欲することはソ聯も欲するであらう」、若し英米佛との了解がなかつたらロシアの卒先の支那援助は日本軍部に日本の對支戦は共產主義と戦ふためのものであるとの口實を與へることにならう、同時に日本軍部は必ず世界に對してロシアは支那側について戦つてゐるから支那を赤化せんとしてゐるに相違ないと語るに相違ない。「若しさうなれば日本軍部は悪辣な宣傳の理想的機會を與へることにならうし、又英米佛特に支那に死活的利害關係を有してゐるイギリスの不必要な誤解を招くことにならう。支那抗戦の意義は何人も知つてゐる、しかしロシアの動員の結果一旦紛糾が起つた場合、日本は機を逸せず支那の赤化を非難し、支那獨立戦本來の意義は混亂して、之は結局支那にもロシアにも

幸ひしないだらう。友邦としてロシアは眞に支那が強くなり繁榮することを欲してゐる、

ロシアは極東の覇權を握る等の野心は持つてゐない」と彼は斷言した。

(ロ)全國救濟委員會及び上海の聯合戰時救濟委員會を代表し、支那の戰時難民救濟の爲外國の

政府と民衆より與へられた援助に對し支那側の感謝を傳へる爲に南京駐在の PAULYU.

PIN 僧正は一月四日飛行機で昆明(雲南府)を出發し佛領印度支那の河内を経て歐洲へ

向つた。彼は一月七日空路河内よりローマへ向ひ一月十三日にローマ到着の予定である、

同地に暫時滞在後彼はパリへ向ひ更に二月上旬アメリカ合衆國へ赴く筈である。

外遊に先立ち彼は當地で孔祥熙其の他の政府要人達と外遊の使命に關して會見を遂げた、

二つの救濟團體を代表して外國の政府と民衆に對し支那側の感謝を傳へる外に尙彼は海外

の親友者に對し最近の抗戰狀態を説明する目的を持つてゐる。

二、香港報

(イ)「安全地帯」設置案の提案者ジャキノ神父は戰時避難民處置に就て支那政府及び民間首腦者達と協議した後重慶より當地へ到着し、「最近重慶の支那側要人達と懇談した結果、私は現在の支那が之迄にない團結を示してをりその前途は最も輝しいものであるとの結論に達した」と言明した、フランスのヂェスイツト派の僧侶である彼は十三日に船で上海へ向ふ筈である。

(ロ)上海よりの報道によれば上海西方、黄浦江南岸、及び上海對岸浦東の支那側遊撃隊に對し大軍を配備して行つた二箇月間に亘る日本側の間斷なき「掃蕩」工作も惨めな失敗に終り目下日本軍は撤退してゐる、其の結果遊撃隊は再び原障地へ移動し、上海西方遊撃隊の兵力は増加せられた、又支那側の一遊撃隊は黄浦江を渡河し目下上海南方で行動中である。日本側は守勢をとり巡邏船數隻が黄浦江を哨戒してゐる。

内閣情報部一・二三 情報第四號

哈府支那語放送(十日)

(熊本遊信局聴取)

一、莫斯科通信新聞ノ報道スル處ニ依レバ日本政府ノ抵抗ハ近衛ガ代表シテ居タガ軍閥等ノ爲メ日本ハ非常ナ困難ヲ表現シ平沼ガ續イテ組織スル事トナツタガ此ハ日本テ近衛内閣ヲ改組シタ新政府ト認メラレ日本ト其他ノ國ノ間ハ依然惡化シテ居ル

二、日本ハ中國ニ於ケル一年餘ノ戦デ八十億ノ戦費ヲ費シ國民ハ此ノ大金ヲ負擔シタ而シテ日本テハ國守總動員ノ非常法律ヲ實行シ日本勞働界ニ向ツテ進攻ヲ實行シ日用品ハ騰貴スル一方テアル且ツ日本ト英米間ノ關係ハ益々惡化シ日本ノ政策ハ失敗シタ

三、日本ノ軍閥ハ代表ヲ用ヒ政府内ヲ統一サセ外觀ハ紛糾ヲ消滅セシメテ居ルガ各困難ハ内部ノ鬭争ヲ引起シ、此ガ將來ハ多大ノ内部惡化ヲ來シ中國ニ於ケル戦争ハ日本ヲ困難ナラシムル新階段デアアル

一、立法院長孫科ハ七日新聞界ヲ招待シテ云フ「中國ノ日本反對ノ前途ハ蘇聯ノ民衆ガ十四ヶ國ニ聲明シ蘇聯ノ人民ガ三ヶ年中ヲ實行シテ十四ヶ國ノ武装干涉ニ勝利ヲ得タノト同様ナモノデ五百餘萬ノ戦士ヲ有スル中國ノ實力ハ既ニ倍加シタ現ニ武装シタ中國ハ日本人ヲ討伐シテ居ル」ト